

Topic 7

ブラウンフィールドの取引実現に貢献した人達

■土地取引を促進させたのは、20年の経験をもつ環境専門家でした。

～コリンウッド再開発事例から～

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。

Topic6 ではコリンウッドの再開発事例をご紹介いたしました。この事例におけるハイライトの1つは、州が地下水浄化を免除したことです。もし浄化免除が認可されていなければ、浄化費用が莫大に増加するだけでなく長期にわたる浄化対策が必要となり、サイト取引および再開発はいつできることやら…という状況になっていたでしょう。

オハイオ州環境局は州独自の環境スタンダードがあり、本来、この地下水の汚染レベルは浄化対策を強いられるものでした。どうやって浄化免除が許可されたのでしょうか？

同サイトの環境サイトアセスメント及びリスクマネージメントを担当したのは **Dr. Willian Rish**。彼は、オハイオ州が認定している環境専門家 (**Environmental Professional**) の1人で、約20年の経験をもつプロ中のプロです。環境汚染物質の暴露経路・暴露シナリオを調査・確認し、及び地下水利用の現状を踏まえたうえで、彼はこのサイトでは更なる地下水浄化を必要としないという結論を導きました。その報告書をサイト所有者に代わって州の環境局へ提出し、地下水浄化免除を申請したのです。州の環境局は、それに対応するべく市民集会を開き、同サイトの地下水汚染に関する説明を行いました。その結果、このサイトを指定都市区 (**Urban Setting Designation**) とすることが決定され、民間の合意を得たうえで地下水浄化が免除されました。つまり、米国の環境専門家が、環境的側面だけでなくブラウンフィールド再開発のチームメンバーとしてサイト取引までの道のりをグッと縮める役割を果たしたのです。サイエンスベースの環境リスク調査結果と州のリスクコミュニケーション力によって、「公衆からの反対」や「柔軟性のない規制当局」の壁を乗り越えることができたようです。

来週も、ブラウンフィールド再開発事例およびサイト取引実現に貢献した人達をご紹介いたします。

お楽しみに。

Thanks God It's Friday!

Thanks God It's Brownfield!!

坂野のつけたし

ここで環境専門家（EP）が果たした役割は、単に調査を行なうことだけではありません。EPには学術的な知識や素養も求められるのです。つまり、ある地域に住んでいる人に対して、環境汚染がどのようなルートで到達し、どの程度の影響を与えるのか、という評価をすることも期待されています。

このような実務のことを環境サイトアセスメントと呼びますが、通常、汚染や地質、水理、人文に関するさまざまな情報や調査結果をもとに、ある評価コードを用いて計算を行います。入力情報の吟味や評価結果の検証など、神経を使う仕事でもあります。

ヨーロッパでは比較的定着している評価方法ですが、正直な話、日本でこれができる人はほとんどいません。環境基準ですべて白黒をつける世界には必要ないのかもしれませんが。